

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会

校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

このへいちかわしんでん

〈五戸市川新田(八戸市市川町)の開発①〉

まるこか えもんのおたね

(圓子嘉右衛門宣種の業績)

江戸時代に、下市川村は盛岡藩に属していました。元文4年(西暦1739)、盛岡藩主の南部利視公が領内巡検の帰途下市川村に立ち寄り、そこで見たものは、荒れ果てた田畑や、いつも鮭のとれる川や海に漁船がないという状況でした。そのために、このような不景気な様子を憂えて、現状をつぶさに報告させました。

その報告を受けた南部利視公は、翌年の元文5年(1740年:275年前)に、一帯の開発を命じました。これが盛岡藩領の「五戸市川新田」事業です。



【五戸市川新田:雷平周辺の絵地図】

【市川新田役所:現在の市川町字下中平沖】

(両図面とも、岩手県盛岡中央公民館が所蔵)

この事業は、五戸在住の藩士圓子嘉右衛門宣種が、「市川新田奉行」と「市川浦御手漁場御用」を兼務で任命され、市川村の新田と漁場の開発が始まったのです。そののち、五戸川沿いの上市川村池ノ堂に取水口を建設し、用水の確保に成功しました。この用水路は後に「中川原用水堰」と呼ばれました。現在でも多賀台団地から市川中学校に通じる「百越階段」の近くを流れ、稲作栽培のための大切な水路となっています。

元文6年(1741)には、高屋敷山と雷山が市川新田の付属となり、市川新田の事業は、田畑・山林・漁場が一体となって開発されることになったのです。そして、新田奉行の執務する「新田役所」は、五戸川左岸段丘の上(現在の市川町字下中平沖)に設置され、ここは門や柵で囲まれていました。(上右の図を参照) 以下、次号へ

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木村 隆一

参考資料：「八戸市史近世資料編Ⅲ」「三戸・八戸の歴史」 ほか

